

## 横浜市感染症発生動向調査報告 3月

### 《今月のトピックス》

- インフルエンザが流行中です。
- 第11週では、インフルエンザ迅速診断キット結果の8割はB型です。
- 流行性耳下腺炎の報告が例年より多い状態が続いています。

### 全数把握の対象

#### 【3月期に報告された全数把握疾患】

A型肝炎	1件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	6件
デング熱	2件	ジアルジア症	1件
レジオネラ症	3件	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
アメーバ赤痢	6件	侵襲性髄膜炎菌感染症	1件
ウイルス性肝炎	1件	侵襲性肺炎球菌感染症	13件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2件	水痘(入院例に限る)	1件
急性脳炎	2件	梅毒	8件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件	風しん	1件

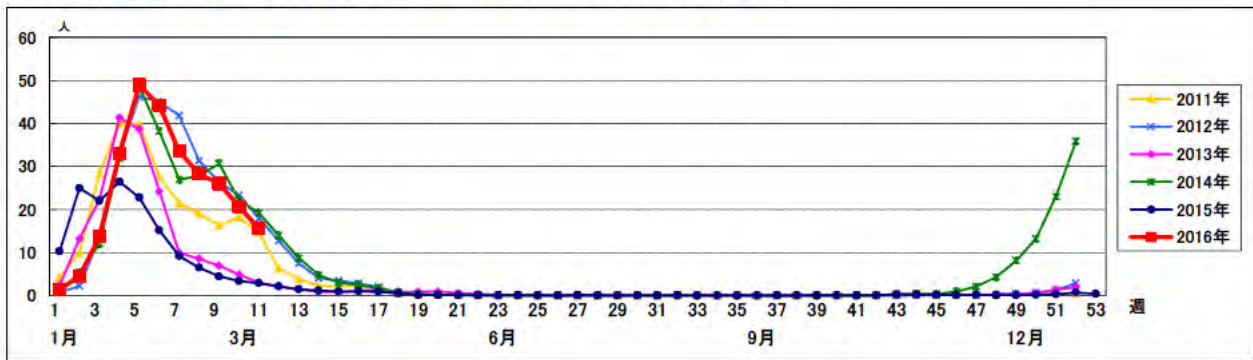
- 1 **A型肝炎**:1件の報告があり、国内での経口感染が推定されています。
- 2 **デング熱**:2件の報告があり、海外(どちらもインドネシア)での感染が推定されています。
- 3 **レジオネラ症**:肺炎型2件、無症状病原体保有者1件の報告がありましたが、感染原因等不明でした。
- 4 **アメーバ赤痢**:腸管アメーバ症6件の報告があり、1件は同性間及び異性間性的接触による感染、もう1件は異性間性的接触による感染、さらにもう1件は海外(タイ(バンコク))での経口感染で、残る3件は感染経路不明でした。
- 5 **ウイルス性肝炎**:1件のC型肝炎の報告があり、国内での異性間性的接触による感染が推定されています。
- 6 **カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症**:2件の報告がありました。
- 7 **急性脳炎**:2件の幼児の報告がありました。1件は迅速診断キットの結果でインフルエンザB型が検出されています。もう1件は病原体検索中です。
- 8 **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:2件の高齢者の報告があり、1件は飛沫感染による感染、もう1件は感染経路等不明でした。
- 9 **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:AIDS3件、無症状病原体保有者2件、その他1件の報告がありました。そのうち2件は国内での同性間性的接触、1件は国内での異性間性的接触、もう1件は海外(タイ)での異性間性的接触、さらにもう1件は海外(タイ)でのタトゥーによる感染が推定されています。残る1件は感染経路等不明でした。
- 10 **ジアルジア症**:1件の報告がありましたが感染経路不明でした。
- 11 **侵襲性インフルエンザ菌感染症**:成人例1件の報告がありました。ワクチン接種歴は不明でした。
- 12 **侵襲性髄膜炎菌感染症**:60歳代の報告が1件ありました。感染経路は不明で、周囲に他の患者は確認されませんでした。
- 13 **侵襲性肺炎球菌感染症**:成人例12件、幼児1件の報告がありました。成人例の2件でワクチン接種歴(1件は約半年前、もう1件は3年前)が確認できましたが、他はすべて確認できませんでした。
- 14 **水痘(入院例に限る)**: 幼児の報告が1件あり、予防接種歴は確認できませんでした。
- 15 **梅毒**:8件の報告(早期顕症梅毒Ⅱ期3件、早期顕症梅毒Ⅰ期4件、無症状病原体保有者1件)があり、うち7件が国内感染例で、残る1件は感染地域不明でした。感染経路では、すべて性的接触で、異性間3件、同性間1件、性別不明4件でした。
- 16 **風しん**:10歳代女性の臨床診断例の報告が1件ありました。ワクチン接種歴が1回ありました。

## 定点把握の対象

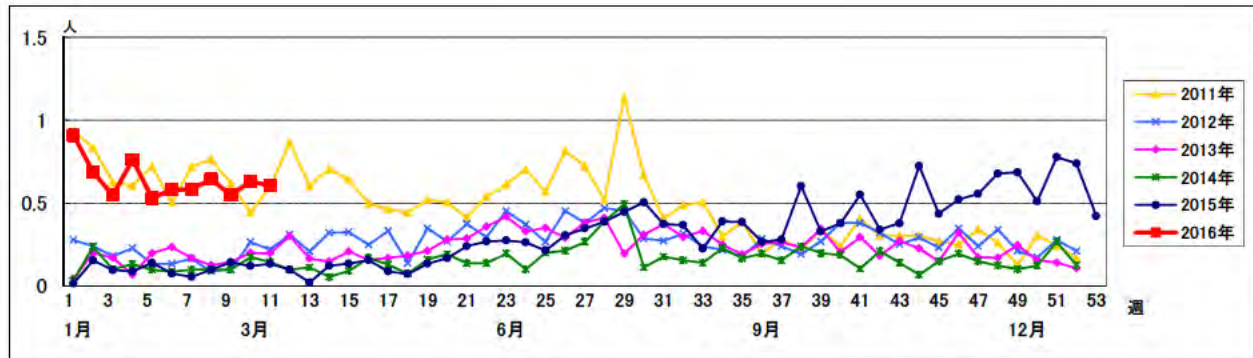
1 インフルエンザ:第11週(3月14日～20日)の定点あたりの患者報告数は、横浜市全体で15.49と減少傾向ですが、区別では20.00を上回っている区もあり、引き続き注意が必要です。医療機関における迅速診断キットの結果報告数では、第11週では全体の約8割がB型です。市内で検出されたウイルスでは、B型(山形系統)の割合が増加傾向です。今シーズンに入り、薬剤耐性遺伝子を検出したウイルス株が2株(AH1pdm09型)検出されていますが、その後の周囲での耐性株の流行は確認されていません。横浜市衛生研究所で実施したワクチン株との抗原性解析では、解析したAH1pdm09株、B型(Victoria系統)株、B型(山形系統)株はすべてワクチン株と類似していました。今後もしばらくはインフルエンザの流行が継続すると考えられるため、手洗い等の感染予防や早期受診などの重症化予防対策が重要です。

◆参考:[感染症臨時情報「インフルエンザ」\(横浜市感染症情報センター\)](#)

平成28年 週一月日対応表	
第 8週	2月22日～2月28日
第 9週	2月29日～3月 6日
第10週	3月 7日～3月13日
第11週	3月14日～3月20日



2 流行性耳下腺炎:第11週は市全体で定点あたり0.61と、例年に比べて報告が多い状況が続いています。



- 3 性感染症:2月は、性器クラミジア感染症は男性が15件、女性が12件でした。性器ヘルペス感染症は男性が8件、女性が10件です。尖圭コンジローマは男性2件、女性が3件でした。淋菌感染症は男性が9件、女性が1件でした。
- 4 基幹定点週報:マイコプラズマ肺炎は第8週0.25、第9週0.50、第10週0.33、第11週1.00と報告されています。感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの)は第8週0.75、第9週0.50、第10週0.00、第11週1.00と報告されています。細菌性髄膜炎、無菌性髄膜炎、クラミジア肺炎の報告はありませんでした。
- 5 基幹定点月報:2月はメチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症10件、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症1件の報告がありました。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はありませんでした。

【 感染症・疫学情報課 】

#### ◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:3か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計16か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

#### <ウイルス検査>

3月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点31件、内科定点14件、眼科定点2件、基幹定点8件で、定点外医療機関からは1件でした。

4月8日現在、ウイルス分離37株と各種ウイルス遺伝子8件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(3月)

分離・検出ウイルス	主な臨床症状						
	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ*1	咽頭結膜熱*2	皮疹+結膜炎	その他	
アデノ NT*3				1			
アデノ 1型				1			
インフルエンザ AH1pdm09型			12				
インフルエンザ AH3型			1				
インフルエンザ B型ビクトリア系統		1	11				
インフルエンザ B型山形系統			11				
パラインフルエンザ 1型	1						
ヒューマンメタニューモ	1						
ヒトコロナ*4			1			1	
ライノ	2						
風疹					1		
合計	4	1	35	1	1	1	

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

\*1:疑いを含む、\*2:アデノ感染症を含む、\*3:型未同定、\*4:HCoV 229E or NL63、HCoV OC43

【 微生物検査研究課 ウイルス担当 】

<細菌検査>

3月の感染性胃腸炎は、基幹定点から4件、その他から1件で、腸管出血性大腸菌(O111:H-,VT1)、サルモネラ(*S. Agona*, *S. Anatum*, *S. Stanley*)が検出されました。

その他の感染症は、小児科定点から1件、基幹定点から8件、その他から37件でした。B群溶血性レンサ球菌およびG群溶血性レンサ球菌は劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者から検出されました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(3月)

感染性胃腸炎

検査年月 定点の区別 件数	3月			2016年1月～3月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		0	4	1	0	18
菌種名						
赤痢菌						1
腸管出血性大腸菌		1			1	1
サルモネラ		2	1		5	1
カンピロバクター						1
不検出	0	1	0	0	12	5

その他の感染症

検査年月 定点の区別 件数	3月			2016年1月～3月		
	小児科	基幹	その他*	小児科	基幹	その他*
		1	8	37	10	21
菌種名						
A群溶血性レンサ球菌	T4 型別不能			1 7		
B群溶血性レンサ球菌			1			1
G群溶血性レンサ球菌		1			2	1
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌		2			3	
レジオネラ属菌						1
インフルエンザ菌						1
肺炎球菌		1	16		3	31
結核菌			14			91
百日咳菌					1	
その他		3	2		5	9
不検出	0	1	4	2	7	13

\*: 定点以外医療機関等(届出疾病の検査依頼)

T(T型別): A群溶血性レンサ球菌の菌体表面のトリプシン耐性T蛋白を用いた型別方法

【 微生物検査研究課 細菌担当 】